



週報

Rotary
東京本郷ロータリークラブ 

2021-2022 年度 国際ロータリーテーマ 「奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために」
東京本郷ロータリークラブテーマ 「安心・革新・前進」(3つのしん)

創立/平成3年3月13日(1991年)

事務局/〒102-0072 東京都千代田区飯田橋1-9-6-905 電話:03-3238-5350 FAX:03-3238-5352

インターネットホームページ: <http://www.t-hongo-rc.gr.jp> E-mail: office@t-hongo-rc.gr.jp

例会:毎週水曜日12時30分 例会場:ホテルメトロポリタンエドモント 電話:03-3237-1111

〒102-8130 東京都千代田区飯田橋3-10-8

会長:熊井 寛 副会長:井田吉則 会長エレクト:廣瀬英昭 幹事:星野大記 会報委員長:中西文太

第1389回例会

2021年9月8日発行(No.1335)

本日の卓話(9月8日)

オンライン例会

「障害者支援に繋がる胡蝶蘭」

(株)ケイフローリスト

代表取締役社長 栗原 浩之会員

次回の卓話(9月15日)

「仕事への誇り・使命感」

(株)関電工 特別顧問 山口 学 様

紹介者 渡辺新吉会員

9月1日 第1388回例会報告

卓話

オンライン例会

「大手企業における
人材開発の新しい取組み」

(株)ライトワークス

代表取締役 江口 夏郎 様

紹介者 山路敏之会員

理事会報告

1. ガバナー公式訪問は、予定通りハイブリッド開催。但し、コロナ禍の状況次第では緊急に対応してWEB開催に変更する可能性もある。
2. 創立30周年記念事業 決算報告は原案の通り承認可決された。
3. 緊急事態宣言下での例会開催方法についての東京本郷ロータリークラブ独自のルールを策定することに決定した。
4. 佐賀・長崎豪雨災害支援金/広島豪雨災害支援金のそれぞれに協力することが承認された。

※一部抜粋

会長報告

1. ロータリー情報委員会 松岡委員長より、松坂パストガバナー書作編集をされた「ロータリー歴史年表」の紹介があり、クラブで100部購入しました。
ロータリーの友誌と合わせて郵送しますので、ご一読下さい。

幹事報告

1. 9月3日 プレPETSがZOOMで開催され、廣瀬会長エレクトが出席されます。



卓話をされる江口様

出席

会員数：48名 出席数：20名 欠席数：5名
出席免除者数：6名 特別措置出席免除者数：17名
出席率：80.00%
8月18日修正後出席率：82.14%
クラブゲスト：江口夏郎様（卓話講師）

ROTARY ROTARY ROTARY ROTARY ROTARY

ニコニコBOX

* 渡辺新吉会員

誕生日お祝い、ありがとうございます。
本日の卓話を楽しみにしておりましたが、所用のため欠席させて頂きます。

* 山路敏之会員

①卓話者江口さん、ありがとうございます。
②緊急事態宣言中の時間有効活用のため、ワインエキスパート試験に挑戦し、先週合格出来ました。ブドウ品種や産地の名前を覚えるのは大変でしたが、脳の活性化には良かったと思います。コロナが終息したら、本郷ロータリーワイン同好会を企画します。

* 星 真人会員

家内の誕生日祝い、ありがとうございます。

ニコニコBOX	5,000円
累計	83,000円

ROTARY ROTARY ROTARY ROTARY ROTARY

「埴 弘道会員からのメッセージ」

報告：親睦活動委員会

皆さん、こんにちは。

私は週一回会社へ、月一回病院へ、たまにはスーパー買い物、その他の日は午前中2時間くらい近くの善福寺川緑地公園を散歩します。

そして、午後は在宅勤務です。気ままに日々を過ごしています。早く通常例会が出来ることを祈念しています。

皆さんよろしくお祈りします。

ROTARY ROTARY ROTARY ROTARY ROTARY

「遠隔地にコロナワクチンを届ける」

ガイアナのデメララ・ロータリークラブの会員は、何十年ものあいだ疾病と闘ってきました。そして今、コロナワクチンを届けることで南米諸国のコミュニティを支援しています。遠隔地にある先住民コミュニティは、ワクチンがなければウイルスに無防備となります。

クラブ会員は、ガイアナの熱帯雨林奥深くに分け入る重要な医療遠征を、30年近くにわたり実施して

きました。そのため会員は村々の特定のニーズ、地域独自の知恵や風習などを良く把握しており、このクラブは近隣のクラブから「ブッシュクラブ」（茂みのクラブ）と呼ばれています。

今年初めにコロナワクチン接種が可能になった際、クラブは素早く活動を始め、地域を熟知した会員を頼って物流計画を立てました。まずムリタロとマラリにある先住民の村に焦点を絞り、地元保健省や民間グループと協力して村人に予防接種を行いました。クラブ会員、医師、そして地元の看護師からなる予防接種チームは、川を8kmボートでさかのぼって村々を訪れました。

同クラブの2021-21年度会長であるバゲシュワル・ムリさんは、医療サービスが十分ではない地域社会でのワクチンの公平分配は、クラブができる適切な支援であると言います。「日ごろクラブで頻繁に行っている活動と一致したこの支援に携われることができ、やる気があふれてきます」とムリさん。

パンデミックによる移動制限で、村人は食べ物、衣服、医薬品、それに生活必需品を手に入れるために町に行くことができなくなりました。そのためクラブは、まず最初にそれらの品々を集めて配給しました。

予防接種チームはムリタロで16名、マラリで24名にコロナワクチンを投与しました。結果は控えめに見えるかもしれませんが、これでもかなりの労力を要します。クラブの奉仕委員長でこのプロジェクトの担当者であるランスロット・カーンさんは、これらのコミュニティではワクチン接種へのためらいが障壁になると話します。

新型コロナウイルスが南米に広がり始めた2020年3月、クラブはこの地域にマスクと消毒剤を届けました。それは、ポリオ根絶という世界的取り組みと、ロータリーの重点分野である疾病との闘いに対するコミットメントを村人に示すものとなりました。これにより、「ロータリーは人びとを見捨てない」という信頼が生まれたと、カーンさんは話します。「ポリオ根絶におけるロータリーの世界での立場は大きなプラスでした」

最近の遠征では、チームメンバーが村長たちにワクチン接種を呼びかけました。「ワクチン接種をした村長は、ほかの住民もワクチン接種を受けるよう説得するにあたり、十分な自信を示してくれた」とカーンさんは言います。

また、ワクチンについての資料を配り、副作用について説明し、住民からの質問に答えました。安全性を理解してもらえるようクラブ会員がワクチン接種を受けている時の写真も見せました。

ムリさんは、予防接種キャンペーンへのクラブの継続的な参加が、より多くの人々がワクチン接種を受けるきっかけになることを期待しています。

※ロータリーWeb (<https://www.rotary.org/ja>)

ニュース&特集記事より抜粋 続きはホームページからご覧ください。